

イエスは主なり

日本クリスチャン・アシュラム連盟



日本アシュラム

アシュラムとはスタンレー・ジョーンズ師がインドの退修方式を取り入れて創始されたキリスト教の新しい祈禱運動である。

開心・静聴・充滿・献身・奉仕 122

『時差の応答』

ルカによる福音書1章8～17節

金元治



私たちが神様に祈るときには、その祈りをすぐに聞いて下さるようにと祈ります。祈りは、その通りになると信じるならば必ず実現すると主イエスは教えられました（マルコ11：23 24）。主イエスに願ったが故に、ただちに病人が癒され、死人が甦り、盲人が見えるようになったことも一度や二度ではありません。主イエスの弟子たちも、足の利かない人を治したり、死人を生き返らせたりしました。このように、祈りが即座にかなえられたこともありましたが、現実の信仰生活では、いつもそうだとは限らないどころか、なかなかそうはなりません。そこで私たちは、祈っても聞いて下さらないとか、信仰が足りないからなのかと思案し、それで祈るのをあきらめたり、祈ることよりも、自分の行いを正してみようとすることが多いと思います。しかし、神は最もふさわしいときに祈りの答えを下さるのです。祈ってから何十年、いや一生かかることもあるでしょう。私たちの祈りと神がその祈りを実現して下さる時間や年月に差があるので、私はこれを時差の応答と言っています。

神がアブラハムの祈りを聞き入れ、子孫を下さるとの応答から、実に25年後にイサクが生まれました。ザカリヤがエリサベツと結婚し年老いて、祈ってもだめだと思っていた時に、神は約束をされ、長い時差でその子ヨハネを与えられました。これが、主なる神の最も良いときでありました（ガラテヤ6：9）。また、血と汗の祈りにもかかわらず、主イエスは十字架を受けることになりました。パウロの棘の祈りは、取り除くよりもあった方が信仰を強められたと言うことで、彼は自分の弱さを誇ることができました（コリントⅡ12：6-9）。祈っても答えられないのは、そのことが逆に神の栄光をあらわし、本人のためになることもあるのです。ラザロが危篤の時に、マルタとマリアは早く来て治してほしいと懇願したにもかかわらず、主イエスが来られたのは死んで四日目でした。主イエスの歩みは、彼女たちやそこに居合わせた人々をあまりにも長く待たせて、失望に陥らせましたが、これは彼らに、復活の信仰を持たせるのに必要な日数であったのです。

聖書では、祈りが強調され、必ず実現すると強く訴えています。それは、時間的にすぐ応答がないからと言って、あきらめたり、神への信仰が薄らいだりしやすいからです。『ただ、疑わないうで、信仰を持って願い求めなさい。疑う人は、風の吹くままに揺れ動く海の波に似ている』（ヤコブ1：6）。私たちは、時差の応答でいらだつことがあります。祈りへの応答がないと、失望することが多いでしょう。しかしながら、主は祈り続けることを教えておられます（ルカ18：1）。信仰を持って祈り続けることが大切で、そのときに必要なのは、忍耐です。神の御旨を行って、約束のものをうけるため必要なのは忍耐（ヘブル10：36）なのです。

（在日大韓基督教大阪西成教会元老牧師）

〈四十年の恵み〉

日本アシュラムの歩み(14)

海老澤宣道

◆印度アシュラムの余恵

国際アシュラムに出席すると、その前後に名所旧跡の観光を兼ねることが出来る。インドでは大石、志村の両君は米国組に加わってネパール国へ出かけたし、私共五名はタイタス師の案内でニューデリー、アグラ、ジャイプールの三都市を廻り、タジ・マハールの大理石の王妃廟を初め、ムガル王朝時代、ガンジー・ネル関係などを観光できて良かった。

◆25周年記念日本アシュラム

一九八〇年はサトタルで世界の50年記念を守ったが、同年は日本で第一回のアシュラムが開かれてより25周年に当り、全国八地区委員会の賛同の下、11月24日から二泊三日御殿場の東山荘で助言者にスタンレーの高弟、インド人牧師D・P・タイタスを迎え、全国各地から百余名の参加者が集い、礼拝(中路)開心(淵江)聖書(タイタス)第二日静聴(宇都宮)福音(後宮)讚美と証(タイタス)第三日静聴(谷本)福音(タイタス)充滿(海老沢)を担当他に植村、村上、横山、内村、中村の諸兄が司会その他の奉仕をされ、一同がイエスを主と仰ぐ弟子として

の自覚を強められ感謝の裡に散会した。

◆第五回国際アシュラム

82年フィンランド国にて

七月14日成田発、15日ヘルシンキ着、森と湖の間を縫ってバスでヤルベンパの会場へ。15日〜18日四泊五日、日本からの参加者20名の多数。フィンランドの委員長リトバ・ハイキネン夫人は私たちを抱きしめて歓迎。米国、カナダ、ドイツ、スエーデン、インド、英国及び現地の八ヶ

国から計三百余名が集まり、助言者には米国のマシウス、バーク、ワグナー、ハンター(カナダ)、エルムリヒ(独)、バーリッジ(英)、ニールソン(瑞)、タイタス(印)が担当、私は一時間を貰い『日本切支丹迫害史略』を話し、26聖人の殉教、かくれ切支丹の子孫が明治維新に村々から現われてきた事などに感銘を覚えたとき多くの人から謝辞を受けた。大石兄は礼拝説教を担当。日本組全員で讚美歌二四三と二九八を練習し、即座に発表、拍手喝采を受けた。リトバ夫人は全日程が終了し、帰国の途に着く各国のグループへ別離を惜しみ涙を流していたが、会報に彼女の感想が次のようにのっていた。

『私たちは遙かに遠い北歐に住むが同じ神の家族、同じアシュラムの家族に属する事を感じた。イエスに属する時、お互いにも属する事を以前よりも良く実感した。貧しく不完全でも構わない。フィンランドに、我らのアシュラムに、救主イエスへの希望と信頼を置くことにしたい。イエス・オン・ヘラ』

◆フィンランドの余恵

首都ヘルシンキに出て夜も太陽が沈まず弱い光を放つ白夜に、シベリウスの音学院、彼の記念像、ルーテル大聖堂、バルト海の乙女アマランダの像などを観光し、シリアラインの美しい白い豪華客船で、スウェーデンのストックホルム港へ向かう。一三五万の水の都。十三世紀風木造の会堂「聖ジョージと龍」の大彫像あり、ルネッサンス風のリダーホルム教会には歴代国王の墓がある。この国は科学者ノーベル、文学者ストリンドベリーやラーゲルエフを生んだ文化の国である。

次に訪れたノルウェイは山岳地で食料を海から得る必要から十世紀頃は海賊になる者が多かった。然しキリスト教の伝道により北欧四ヶ国は国民の90%以上が救われ、今日の親切柔和な民族性となっている。探検家アムンゼン(南極)ナムセン(北極)は海の男の中から生れた。近世になって劇作家ビョルンセンやイブセン、画家ムンク、音楽のグリークと文化面でも世界的になる。オスロ市内にはヴィーゲランの彫刻で有名なフログネル公園、12世紀

風の会堂、海賊博物館三つを見、列車で西部に向い、フラムから氷河期にできたフィヨルドの中を船旅。13世紀の首都ベルゲンでグリークの家を訪ねた。

最後にデンマークのコペンハーゲンに飛ぶ。昔は北欧半島を支配した大国。今日は九州位の小国。この首都は12世紀にアプサロム主教により建都された。教会や公園多く、人魚姫像、テイボリ公園、アンデルセンの大銅像、彫刻家トルワルセンは「我に来よ」と両手を掲げる大理石のキリスト像の作者。どこにあるかと尋ね漸くフォル・フロイ・キルケの会堂に入り撮影。牧師で思想家、国民高等教育、デンマーク体操の考案者グランドウイの教会ではそのオルガンと聖歌隊のテープを入手することができた。七月26日全日程を終え、全員夕食前に感謝礼拝を守り、翌日午後北極経由、28日午後、成田に着した。



東京都目黒区中央町1-21-10
 碑文谷教会執行
 日本クリスチャン・アシュラム連盟

アシュラム生活最良の友
パ・ルーム
 海老沢 宣道 編集
 6 回刊行の日々の糧)
 超教派的、靈的な読物
 年90円、年2,340円(年共)
 個人予約注文は 5,400円 (年除く)
 0256-0812 小田原市国府津3-11
 0110-7-193834 アパ・ルーム
 0465-48-2010
 版は創刊以来49年続行中

旧約聖書 靈想

『はじめに神』

泉北ニュータウン教会牧師 土山牧羔

「はじめに神は天と地とを創造された。神は『光あれ』と言われた。すると光があった」(創世記1・1)

新しい千年期を神の恵みの満ちあふれた幸いな世紀としてくださる神に、心を寄せましょう。神こそ、私たちの総ての事柄の初めであり、信仰生活の旅路を先立って導くのは、神ご自身です。だから「神第一」を人生の標語にして生きましょう。

(一) 一つの詩的宇宙観

50年余り前、米留学学生の時に、「ファンタジア」という美しいアニメの音楽映画を見ました。それは、宇宙の出現と生物の発生、そして人間の進歩の歴史をアニメに描いた長時間の美しい作品でした。

まだ宇宙が存在しない暗黒の大空間に大閃光が光り、雲の渦巻きのような星雲の大群が現われ、分散して星座や、太陽や、火山が壮烈に噴火する地球に成ります。

突如として水中で大噴火が起り、溶岩が水中に噴出し粉々に粉碎されて水中にばら撒かれると、アミューバになって水の中を泳ぎだします。

陸の上は熱が冷め、雨が降って草木が大地の中から生え出します。水中と陸上の多種類の生物が発生し、最後に未開の人祖が出現します。

私はこれは単なる科学ではなく、何と美しい詩の世界ではないかと思いました。こういう宇宙史詩のシナリオを想像し考えて書いた作者がおり、麗しい絵を描いた画家と、美しい音楽を奏でる音楽家たちが大勢いて、すばらしく演出された創作芸術と感じたのです。

(二) 創造と発展の主なる神

しかし、この映画には創造主なる神が出現しません。神は目で見えない霊ですから。クリスチャンがこの映画を見て、これは無神論だと反感を感じません。「ああ、神はこのようにして世界を創造し、美しく素晴らしい進歩発展させたのだな」と霊で感じないでおいけないでしょう。

この映画を見たとき、私は心の中で「これを創造したのは私だ。私は、全知、全能の神だ」と囁く神の声を霊で感じました。ネパールの山で見た空の星は、日本では考えられないほど清く美しく輝いてました。

もっと美しく深みがあり、原本になる宇宙史詩が、神の啓示として創世記第一、二章に書かれ、多くの天才に強い靈感を与え、優れた芸術や音楽を生み出し、信仰的精神的意味での感化を及ぼしました。

無神論者は、星雲が分散して飛んでいって、こうなったと想像するだけですが、私は、ネパールの山で空の星を眺めて「天は神の栄光を物語り、大空は創造者なる神の御手の業を示している。話すことも、語ることもなく、声は聞こえなくても、その響きは全地に、その言葉は世界の果てにまで及ぶ」(詩篇一九)と霊感的に感嘆させられました。

(三) 人間に先行する神

芸術家の空想や、科学者の仮説的推理によらないで、無数の天体と多種の生物がいる実在の自然界、また現実の人間の世界が、より良い方向へと進歩発展し変化していくには目的が必要で、また善と悪との区別と基準があるべきです。

自由を与えられた人間が、愚かな知恵で神の道から外れて罪悪へと墮落し、神の創造を傷つけました。それを修復するのは、完全な愛と義しさと真実さをもった神です。神は、宇宙と人間を最後の完成を目指して、歴史を導いていられ、人が神に救いを求めるに先立って、神は愛と恵によって救済目的で人を追求して、救主イエス・キリストを遣わす備えをされました。



新約聖書 靈想

『魂の休み』 ①

マタイ11・28
ヨハネ15・4・5

函館栄光教会牧師 白川鄭二

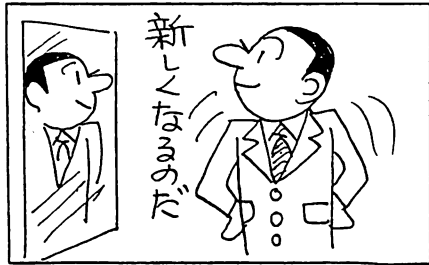
このマタイの聖句は人がキリストに来る第一の目的は魂の休みであると言っている。それは一見簡単であるように見えるが実は非常に深い意味を持っている。人々がキリストに来るのは、全ての恐れ・不安・苦悩から解放されて、平和と喜びを味わうためであるから簡単なことではない。あるクリスチャンは信仰を持って、自分の願いが聞かれないことを嘆く。そのような人にキリストは言われる。「私に繋がっていない(ヨハネ15・4・5)、休ませてあげよう」と。信者が休みを得られない原因は、彼がキリストに来て、長く留まらないうちに、これらの聖句に問題を解決する鍵が隠されている。キリストの許にきてキリストを我が主として受け入れる時、人は肩の重荷を下ろしたような安らぎを覚える。すなわち、神に背いている罪(原罪)が赦され、神に受け入れられたという自覚をもつ。そして救い主の愛を知り、心に平安を覚える。神と和解したことを知るのである。

東京03-001-0011 四二五九
編集長 大石 嗣郎
編集人 有馬 歳弘
定価 一部60円 千80円

国際 3ヶ年先
価300円 申込
振替口座
電話番号
日本

はれるやん

② 谷牧子



しかし、間もなく始めの喜びは消えて行き、平安もなくなる。その訳は神があなたに与えようとしておられる祝福を完全に自分のものとするには、時間が必要なのである。あなたの魂の根がキリストの愛にしっかりと根を下ろすまでに時間がかかるのである。キリストの愛が、自分の最も深いところで、自分の思いと一つになるのを待たなければならぬ。そうでない、たとえキリストが与えようとされているものであっても、それを直ぐ様、十分に味わい、それを喜ぶようにはならないのである。マタイ11章の句には「平安を与える」の約束が繰り返されている。始めの休み、すなわち疲れた者が主の許にきて歓迎され、見出す平安だけではなく、それよりもさらに深いところにある平安、それは人の内部に生じて、しっかりと根を下ろす平和で

あるが、それをキリストは約束されているのである。
マタイ11・29「わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得る」。軛とは下の面に窪みがある頑丈な横棒で、二頭の牛の首の間に皮紐などで固定され、その横木の中心に鋤の長柄などを取り付けて耕作に用いたもの。△軛を共にする△ことは△真実な協力者△の意味になる(Ⅱコリント6・14)。軛の一つの意味はキリストと協力関係に入る事。もう一つは律法の重荷を負うこと(使徒15・10)である。ユダヤ人は日常生活で律法の重荷に苦労していた。ペトロはエルサレム会議で「なぜ今あなたがたは、先祖もわたしたちも負いきれなかった軛を、あの弟子たちの首に懸けて、神を試みようとするのですか。

わたしたちは主イエスの恵により救われたと信じているのですが、これは、彼ら異邦人にとっても同じことです」と異邦人キリスト者にモーセの律法を守らせようとする保守派の主張に反論している。(次号に続く)

九州アシラムの恵み

第34回九州アシラムは、十一月二三日、二四日と宗像市にあります福岡黙想の家で開くことができます。ここは人里離れた所で宿泊室はすべて個室で、アシラムにふさわしい場所でありました。

助言者には、連盟理事長の大石嗣郎先生をお迎えしました。助言者として最適の方が送られたことを心より感謝しています。旧約聖書の人物の中から、アブラハム、ヨナ、モーセ、エレミヤをとりあげ、彼らの祈

りを通して、私たちに祈りのすばらしさと醍醐味を語ってくださいました。また、これらの預言者の祈りが、主の祈りに凝縮されていることも示してくださいました。七十七才とは思えない先生の姿、ご奉仕を見ながら、私たちも、さらに主の働きに加わるこの大切さを教えられたことでした。

九州アシラムには、どんなことがあっても、必ず参加される方々が数名おられます。また一方では、新しく加えられた方々もおられました。その人たちは、以前九州アシラムに参加された兄弟姉妹に強く勧められて、出席されました。そして喜びと感謝に満ちて帰られました。アシラムの働きも、個人伝道と同じで、口づてで新しい人が加えられていきます。

私はこの数年九州アシラムの事務局の奉仕をさせていただいています。集まって来られる方々の顔を見し、また感謝でそれぞれの教会へ遣わされていく姿を見ると、この奉仕をさせていただいてよかったと感謝でいっぱいになります。

今から来年のアシラム(35回)が楽しみです。今回の参加者は29名でした。(報告・岡山敦彦)

●武井啓治牧師 12月9日(土)逝去。
ご遺族に主の慰めをお祈り申し上げます。